

yz001002	自然 海(海岸地形と海洋生物)	概要 適用
 yz001002001) 切り立つ断崖①  yz001002002 切り立つ断崖②  w001002003 メガ崎のタイドプール  w001002004 造礁サンゴ  w001002005 貝も大きい  w001002006 魚種、個体数多い海①  w001001007 魚種、個体数多い海②		【概要】 ・口永良部島の海岸は、ほとんどが自然海岸として残っており、黒潮の荒波の浸食によって形成された断崖や特徴的な巨岩、海食洞窟、タイドプールなど変化に富んだ姿をみせる。 ・沿岸の海域は、透明度が高く、黒潮の影響を受けるため、温帯性の魚類だけでなく、熱帯性の魚類や造礁サンゴも生息しており、多様性の高い生物相を形成している。 ・魚類のほとんどが南日本海域に分布する種だが、出現種の約2割は奄美又は琉球列島に分布する熱帯種も見られる ・造礁サンゴについては、平均被度が43.3%（2003年調査）と非常に高い被度を保っており、現在に琉球列島及び大隅諸島において、きわめて健全な状態を維持している貴重な場所になっている。 ・ウミガメが周辺海域に生息していてよく観察される。 【文献・資料】 文献① 霧島屋久国立公園口永良部島マップ（環境省屋久島自然保護官事務所） 【写真】 yz001002001)切り立つ断崖① yz001002002)切り立つ断崖② yz001002003)メガ崎のタイドプール yz001002004)造礁サンゴ



yz0010010008

クマノミ



yz001001009

ヒレナガカンパチ



yz001001010

ウミガメ①



yz001001011

ウミガメ②

yz001002005)貝も大きい

yz001002006)魚種、数ともに多い豊かな海①

yz001002007)魚種、数ともに多い豊かな海②

yz001002008)クマノミ

yz001002009)ヒレナガカンパチ

yz001002010)ウミガメ①

yz001002011)ウミガメ②